

2019年度

大阪市二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

1 大阪市二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 疾患別の状況
- (4) 入院患者の推移
- (5) 在宅医療提供体制
- (6) 診療実態の分析の結果

2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

3 急性期(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

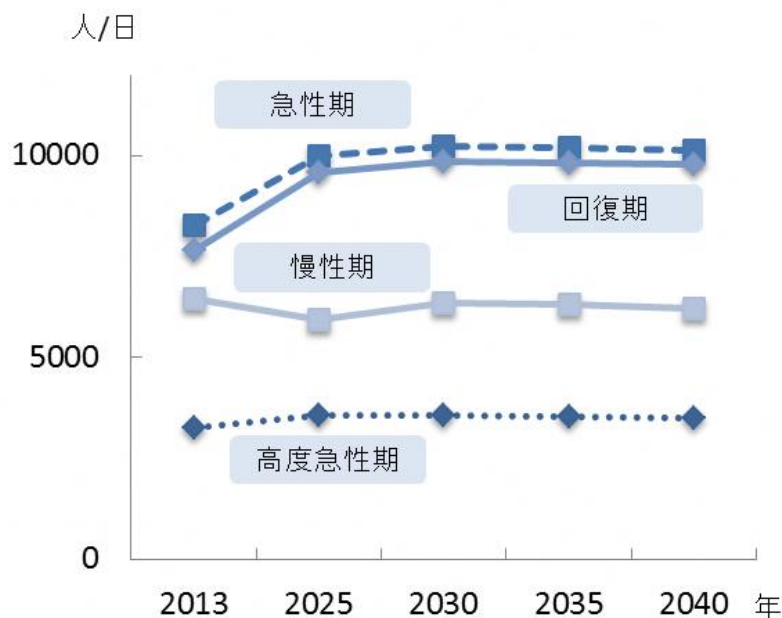
5 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している
病床機能
- (2) 2025年に各病院が検討している
病床機能のまとめ

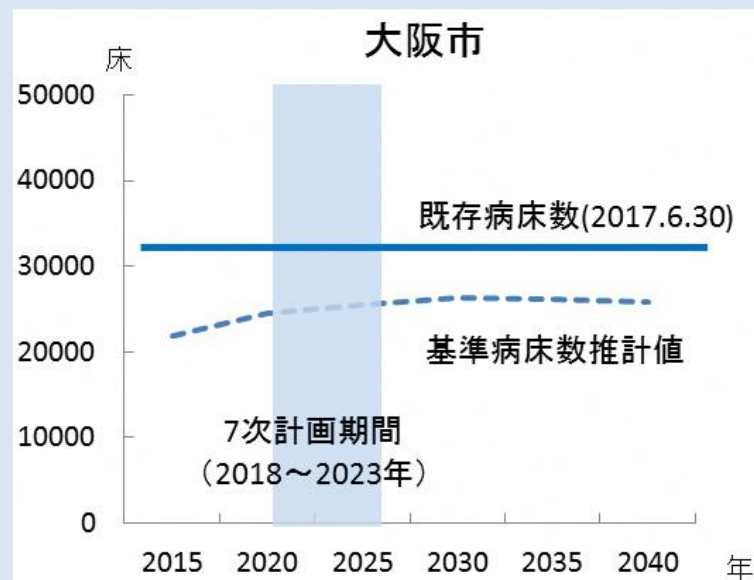
1 大阪市二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加し、その後、横ばいからやや減少となる見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	3,251	3,558	1.09	3,565	1.10	3,533	1.09	3,503	1.08
急性期	8,286	10,013	1.21	10,252	1.24	10,199	1.23	10,131	1.22
回復期	7,672	9,596	1.25	9,876	1.29	9,839	1.28	9,786	1.28
慢性期	6,442	5,941	0.92	6,347	0.99	6,314	0.98	6,204	0.96
合計	25,651	29,108	1.13	30,040	1.17	29,885	1.17	29,624	1.15

参照：第7次大阪府医療計画
一部改編

1 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

新公立病院改革プラン補足調査対象病院が4病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が16病院である

●主な医療施設の状況(1)

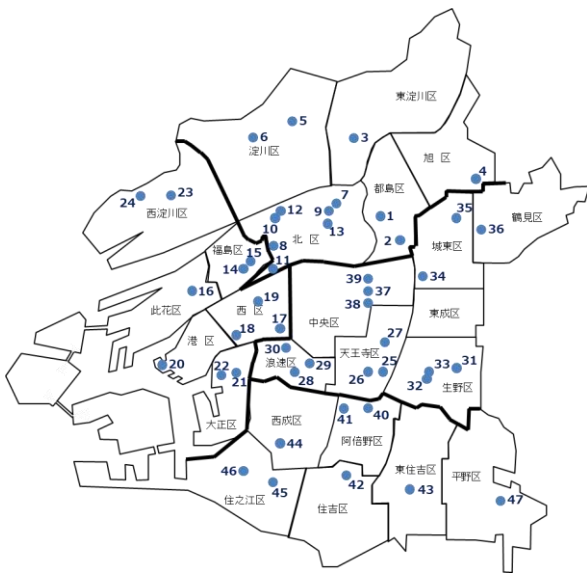
No.	所在地	病 院 名	新 公立 病院 改革 プラン に か か る 補 足 調 査 対 象	公 的 医 療 機 関 等 2 0 2 5 プ ラン 対 象 病 院	特 定 機 能 病 院	地 域 医 療 支 援 病 院	社 会 医 療 法 人 開 設 病 院	公 的 医 療 機 関 等	府 立 病 院 機 構	在 宅 療 養 後 方 支 援 病 院	が ん 診 療 拠 点 病 院	三 次 救 急 医 療 機 関	災 害 拠 点 病 院	特 定 診 療 災 害 医 療 セ ン タ ー	周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー	感 染 症 指 定 医 療 機 関	結 核 病 床 を 有 す る 病 院	E i s 治 療 拠 点 病 院	
1	都島区	大阪市立総合医療センター	○			○		○				□	○	○		□	○		○
2		社会医療法人明生会明生病院					○												
3	東淀川区	宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院		○		○					○				○				
4	旭区	社会医療法人真美会中野こども病院					○												
5		社会医療法人協和会北大阪病院					○												
6	淀川区	大阪市立十三市民病院	○				○											○	
7		社会医療法人協和会加納総合病院					○			○									
8	北区	健康保険組合連合会大阪中央病院		○			○												
9		社会医療法人行岡医学研究会行岡病院					○												
10		社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院		○			○				○								
11		一般財団法人住友病院								○	○								
12		大阪整肢学院		○				○											
13		公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院		○				○			○	○				○			
14	福島区	独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院		○			○				○	○							
15		関西電力株式会社関西電力病院								○	○								
16	此花区	社会福祉法人大阪暁明館大阪暁明館病院								○									
17		社会医療法人寿栄会大野記念病院					○			○									
18	西区	多根総合病院					○			○			○						
19		公益財団法人日本生命済生会日本生命病院					○			○	○								
20	港区	独立行政法人地域医療機能推進機構大阪みなと中央病院		○			○												
21		ほくとクリニック病院																	
22	大正区	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会泉尾病院		○			○			○	○								
23		一般財団法人淀川勤労者厚生協会附属西淀病院								○									
24	西淀川区	社会医療法人愛仁会千船病院					○			○	○					○			
25		医療法人警和会第二大阪警察病院									○								
26	天王寺区	医療法人警和会 大阪警察病院		○			○			○	○	○							
27		大阪赤十字病院		○			○			○	○	○							
28	浪速区	社会医療法人弘道会なにわ生野病院					○					□	○	○					
29		社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院								○						□			
30		社会医療法人寿会富永病院					○			○									

注：公的医療機関等2025プラン策定依頼時は、地域医療支援病院承認前であったため、「将来に向けた病院のプランに関する調査」に回答

1 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

● 主な医療施設の状況(2)

所在地	病院名	新公立病院 補足調査対象 改革プラン	公的医療機関等 2025プラン 対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人 開設病院	公的医療機関等	府立病院 機構	在宅療養 後方支援病院	がん診療 拠点病院	三次救急 医療機関	災害拠点 病院	特定診療 災害医療センター	周産期 母子医療センター	感染症 指定医療機関	結核病床 を有する病院	エイズ 治療拠点病院	
東部基本保健医療圏	31 生野区	医療法人育和会育和会記念病院								○								
	32 生野区	医療法人同友会共和病院								○								
	33 城東区	医療法人味木会味木病院																
	34 城東区	社会医療法人大道会森之宮病院				○			○									
	35 城東区	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院		○		○	○			○								
	36 鶴見区	社会医療法人盛和本田病院								○								
	37 中央区	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター	○		○			○	○		◇				○			
	38 中央区	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター		○		○	○				□	○	○					○
	39 中央区	国家公務員共済組合連合会大手前病院		○		○	○				○							
南部基本保健医療圏	40 阿倍野区	西日本旅客鉄道株式会社大阪鉄道病院								○								
	41 阿倍野区	大阪市立大学医学部附属病院		○	○		○			□	○	○		○				○
	42 住吉区	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター	○			○	○				□	○	○		○			○
	43 東住吉区	医療法人橘会東住吉森本病院		○		○				○								
	44 西成区	医療法人山紀会山本第三病院								○								
	45 住之江区	社会医療法人景岳会南大阪病院								○								
	46 住之江区	社会医療法人三宝会南港病院								○								
47 平野区	長吉総合病院									○								
合計			4	16	2	13	15	15	2	18	23	6	7	1	8	1	1	4



2019年5月末時点
【対象病院数174の内訳】
公立病院：4
公的病院：16
民間等病院：154

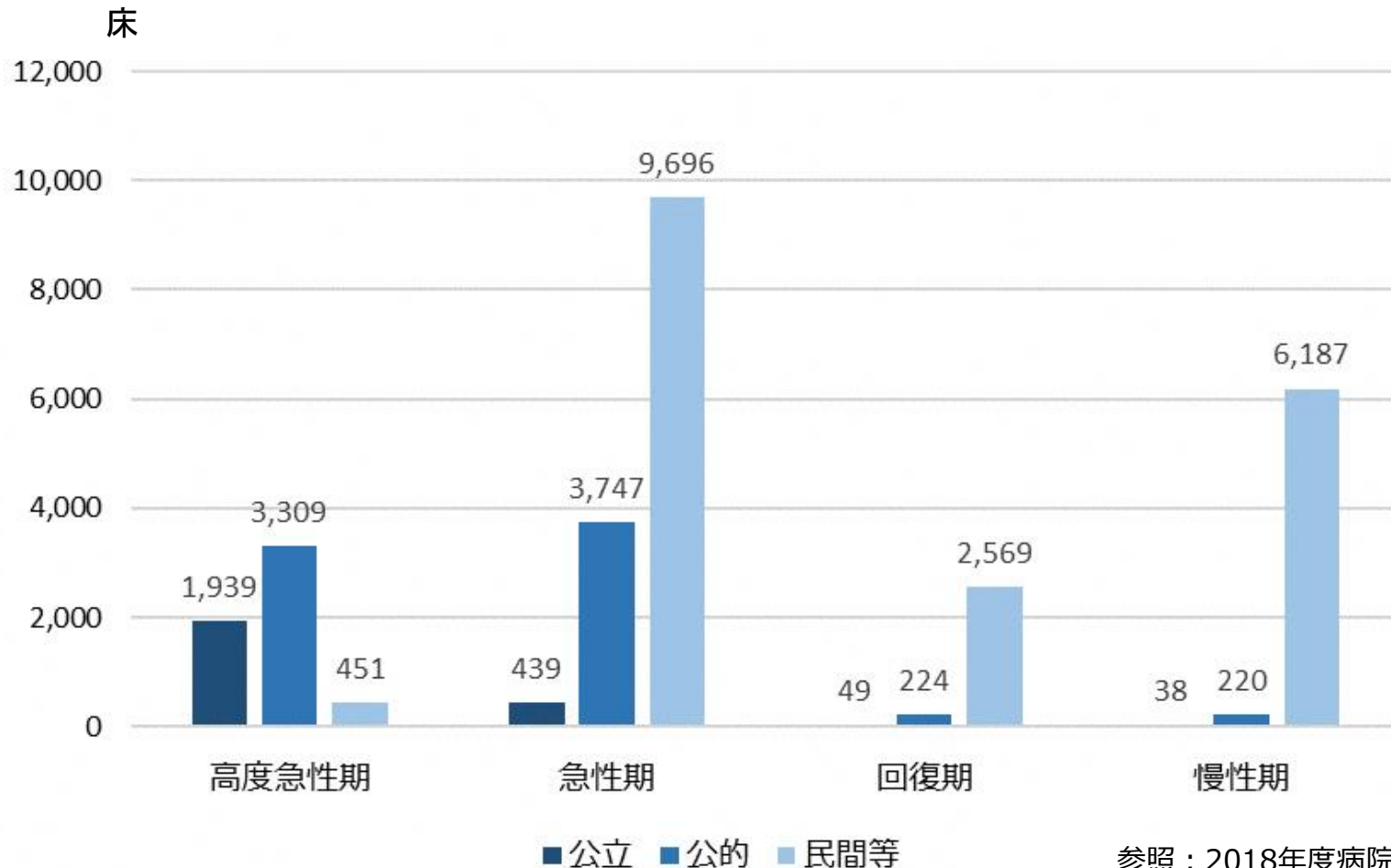
※ 「がん診療拠点病院」の◇印は「都道府県がん診療連携拠点病院(国指定)」、□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。
 ※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

参照：第7次大阪府医療計画一部改編

1 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

病床機能別病床数において、高度急性期では公立・公的病院が、急性期・回復期・慢性期では民間等病院が多い

● 病床機能別病床数(病院プラン等提出156病院(公立4、公的15、民間等137))

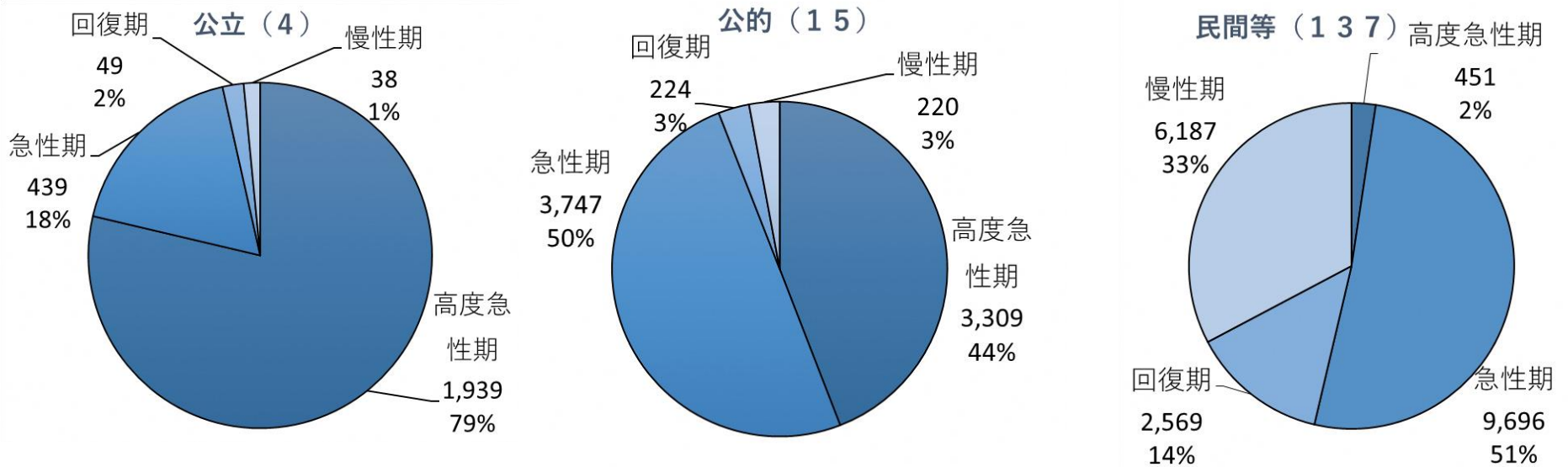


参照：2018年度病院プラン調査等

1 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的病院では高度急性期～急性期が大半を占め、民間等病院では回復期～慢性期が約半数を占める

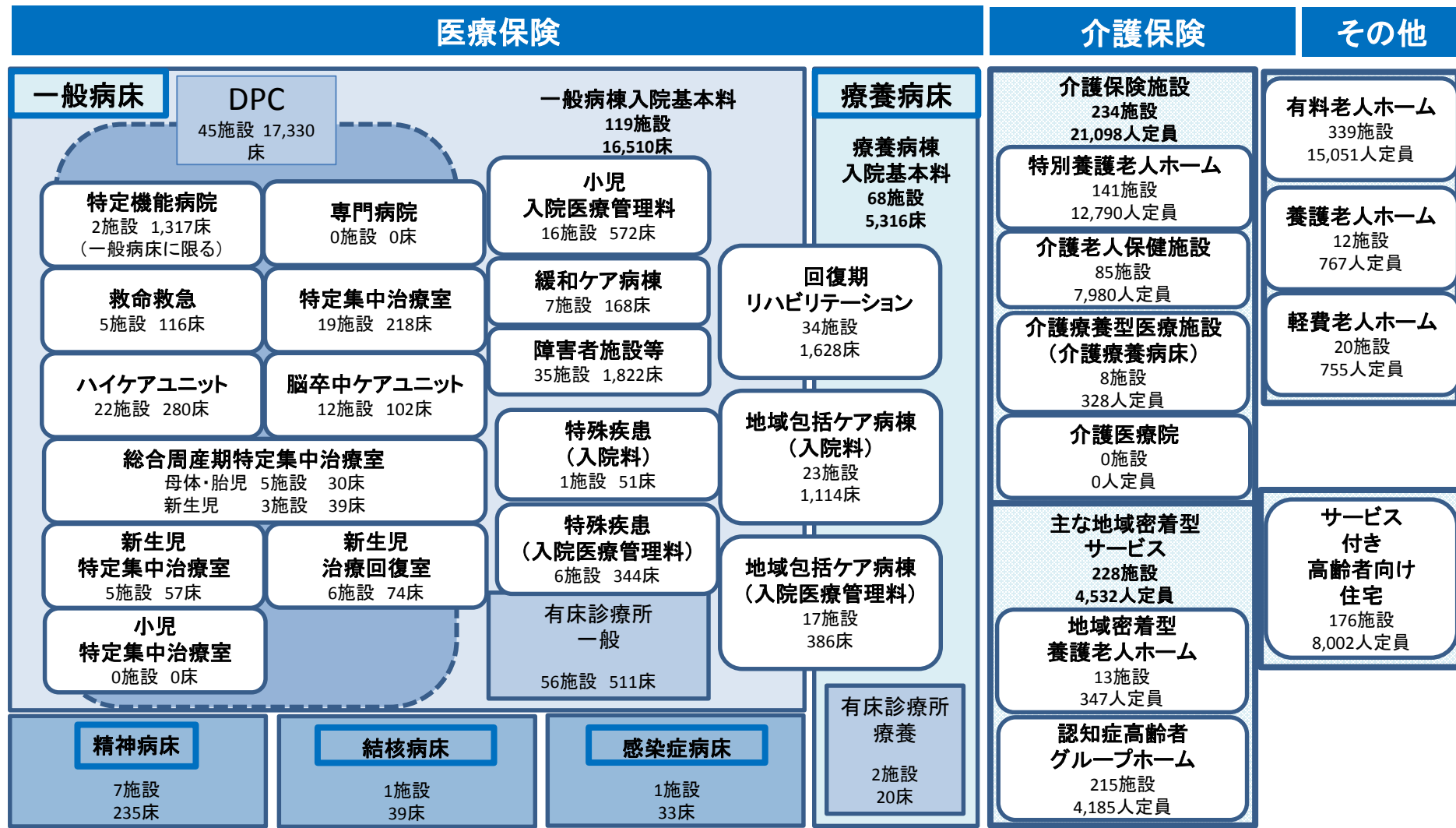
● 公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出156病院(公立4、公的15、民間等137))



参照：2018年度病院プラン調査等

1 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要④(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されている



1 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑤(入院料別の経年変化)

障害者施設等・特殊疾患病棟、地域包括ケア病棟入院料、療養病棟入院料が増加、一般病棟10対1、15対1、介護療養病床は減少している

●入院料別報告病床数の推移



① 大阪市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑥(転換補助金)

「病床転換促進事業補助金」の交付病院数は府全体で増加傾向であり、大阪市二次医療圏においては7病院に対し、交付実績がある

病床転換促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	8	6	0	315	285	0
合計	23	17	5	840	592	160

大阪市

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	1	1	1	78	78	78
2016年	3	3	0	63	63	0
2017年	1	0	0	20	0	0
2018年	2	2	0	29	29	0
合計	7	6	1	190	170	78

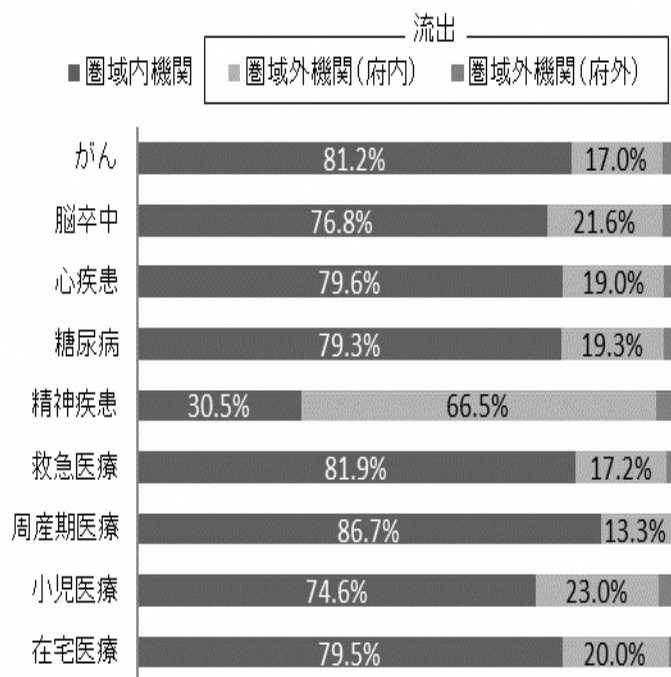
1 大阪市二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況①(患者受療状況)

精神疾患を除き、5疾病4事業等の自己完結率※は、2015年度より低下しているものの8割程度と高く、また流入超過となっている

○5疾病4事業・在宅医療

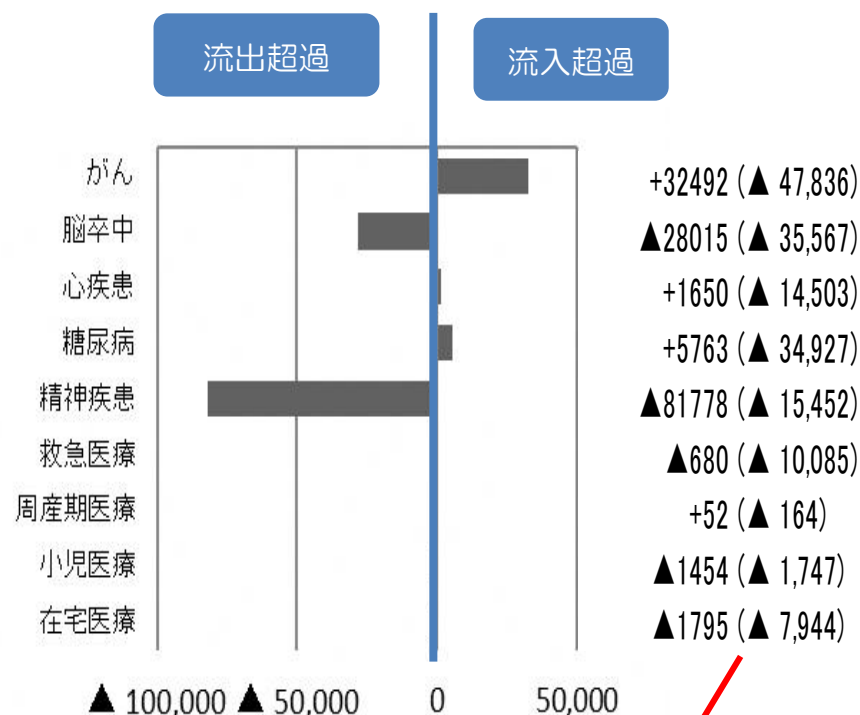
(1)患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合



※自己完結率：圏域内の医療機関で入院する割合

●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



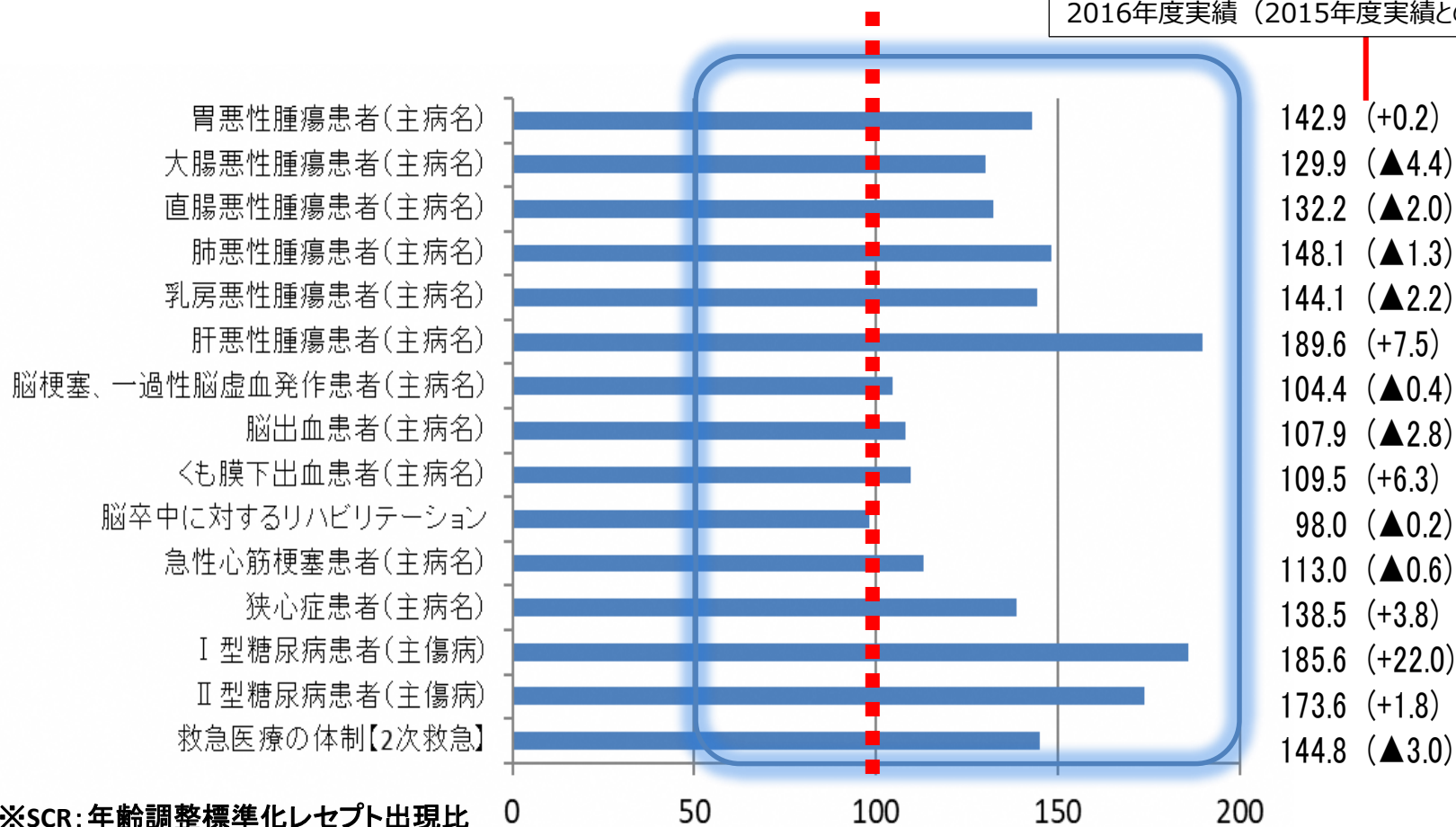
【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)

1 大阪市二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況②(医療提供状況)

すべての疾患のSCRは、50～200の範囲に含まれており、医療提供実績が低い疾患はみられない

(2) 医療提供状況 (SCR※) (2016年度NDBデータ)

【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)



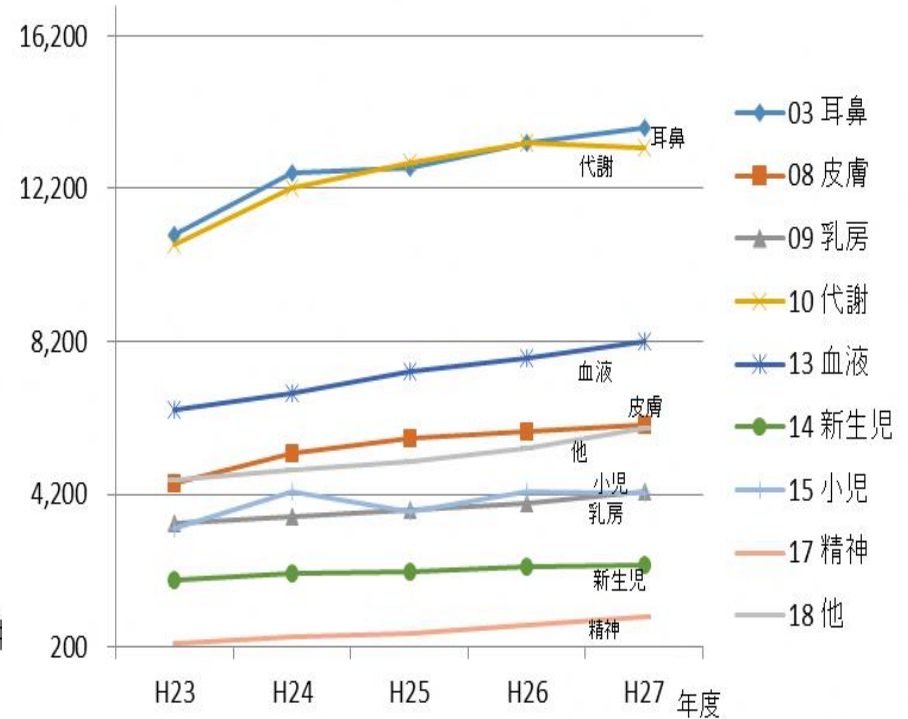
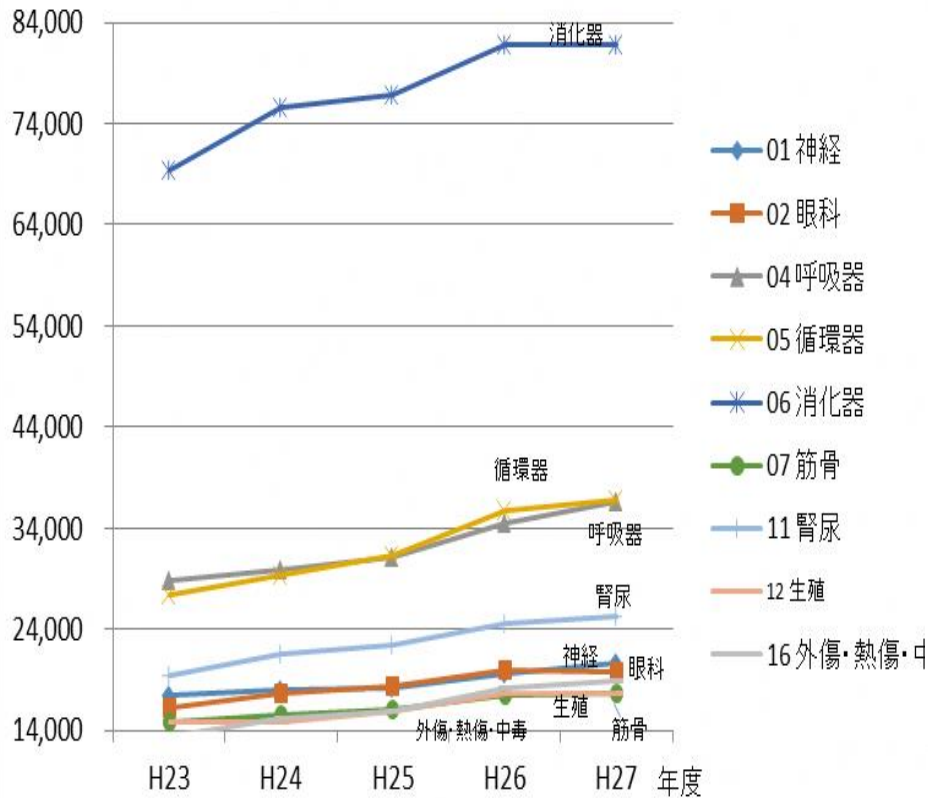
1 大阪市二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況③(診療実績の推移)

多くの部位別の診療実績では増加傾向となっている

ODPC参加病院のMDC※別診療実績の総計推移(大阪市内)

● 診療実績14,000件以上

● 診療実績概ね14,000件未満

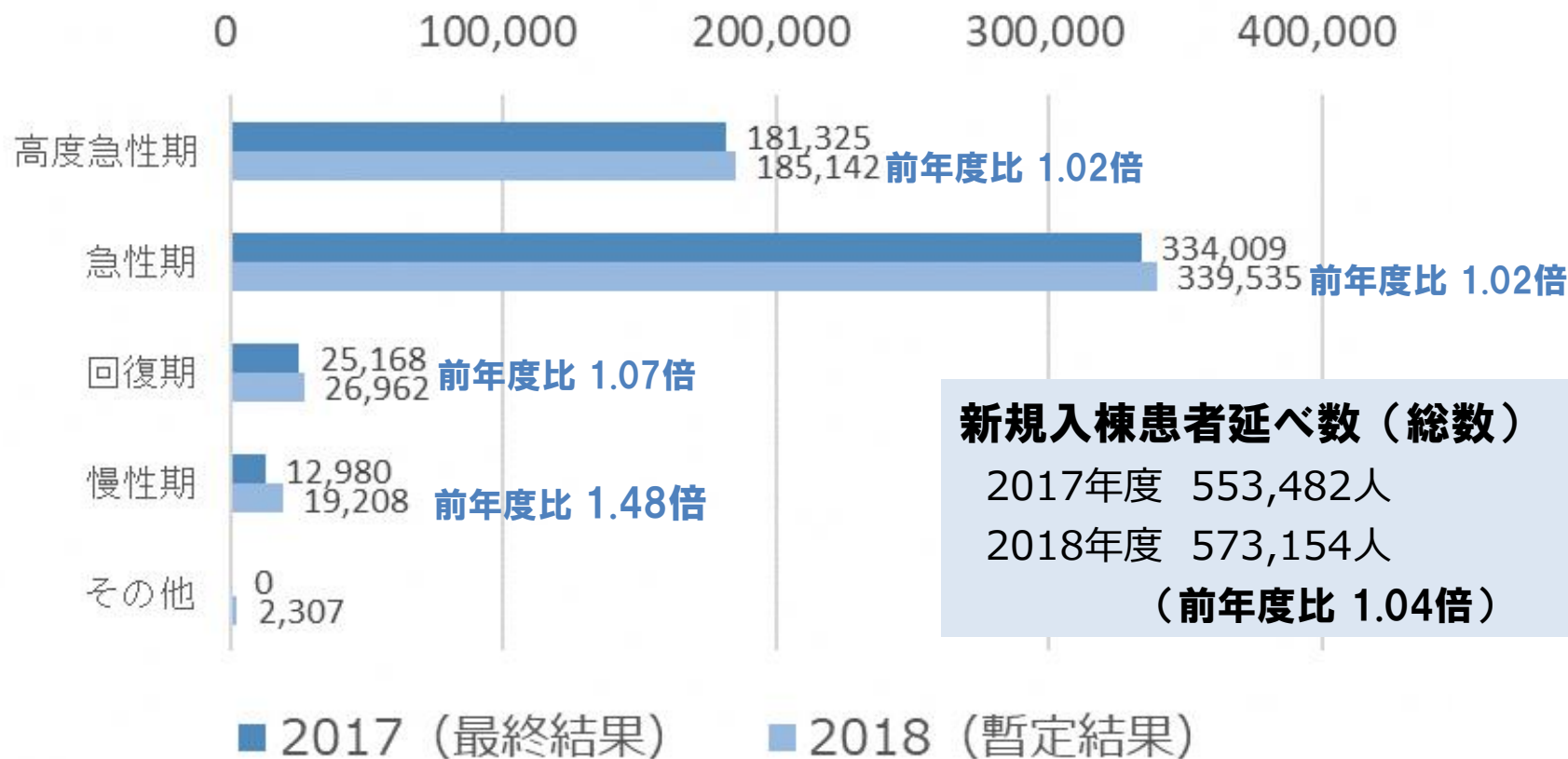


※MDC: Major Diagnostic Categoryの略、18群に分類された主要診断群

1 大阪市二次医療圏の概要 (4) 入院患者の推移①(新規入棟患者延べ数)

新規入棟患者延べ数は微増しており、病床機能別では、慢性期が約1.5倍に増加している

● 新規入棟患者延べ数の推移

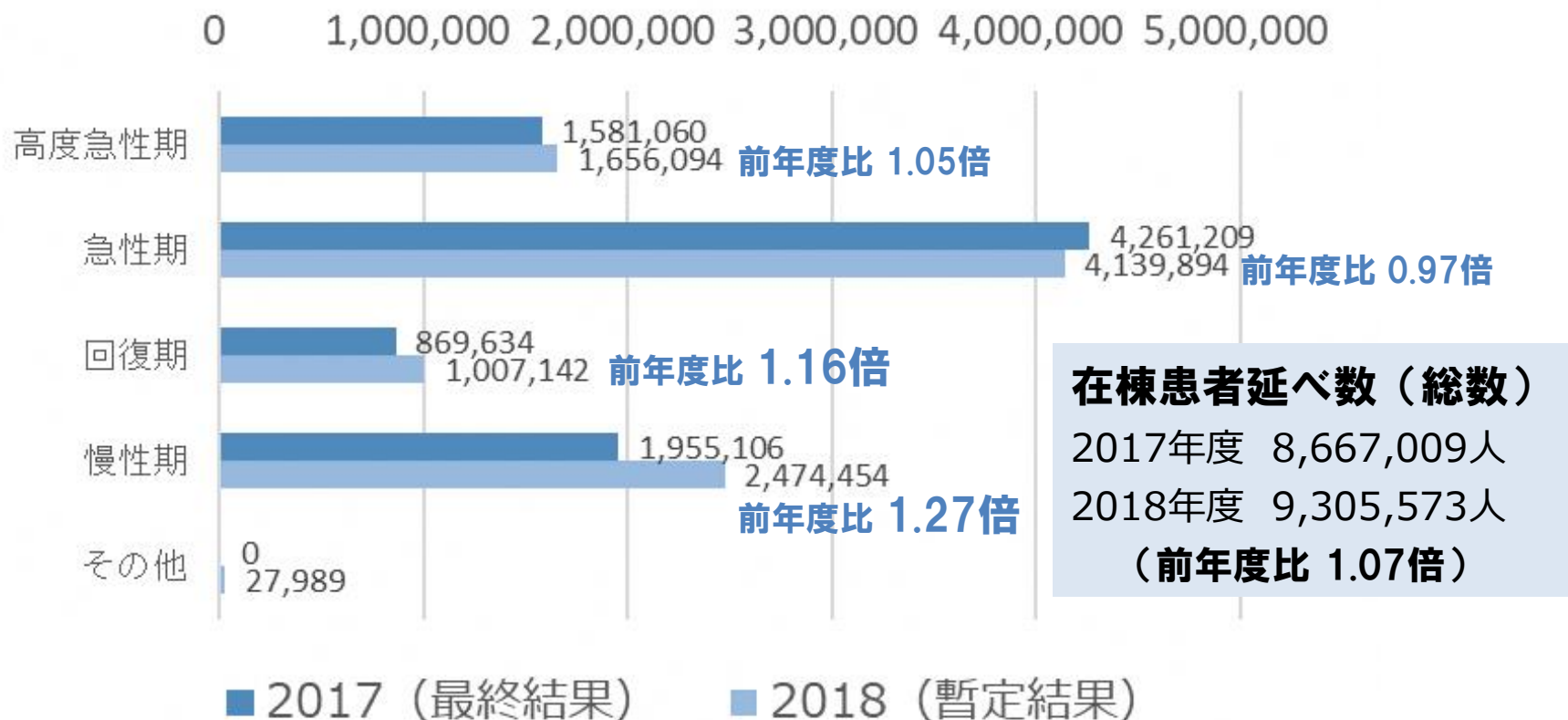


出典 病床機能報告

① 大阪市二次医療圏の概要 (4) 入院患者の推移②(在棟患者延べ数)

在棟患者延べ数は微増しており、病床機能別では、高度急性期～急性期で横ばい、回復期・慢性期で増加している

● 在棟患者延べ数の推移



出典 病床機能報告

1 大阪市二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制①

人口10万当たりの在宅医療提供施設数は府を上回っている

●在宅医療提供体制(人口10万対施設数)

	訪問診療を 実施してい る診療所	在宅療養支 援診療所	再掲) 機能強化型	在宅療養支 援病院	再掲) 機能強化型	在宅療養後 方支援病院	退院支援加 算届出施設 数	訪問診療を 実施してい る歯科診療 所(居宅)	訪問診療を 実施してい る歯科診療 所(施設)	在宅療養支 援歯科診療 所	在宅患者調 剤加算の届 出薬局	訪問看護ス テーション	再掲) 機能強化型
	豊能	21.9	18.5	3.8	0.48	0	0.19	2.7	9.8	7.3	11.6	15	10.5
三島	19.5	21.2	2	0.94	0.54	0.54	3.1	6.7	5.4	7.1	14.9	7.8	0.54
北河内	17.2	12.7	2.1	1.37	0.26	0.17	2.9	7.6	7.8	9.8	15.5	10.9	0.26
中河内	20.4	19.2	3.9	0.95	0.47	0.12	2.3	9.7	7.4	11.2	10.2	10.7	0.47
南河内	20.9	19.7	3.8	1.31	0.98	0.33	3.1	9.3	8.6	12.1	14.5	12.4	0.16
堺市	20.7	19.2	3.1	1.31	0.6	0.24	2.5	10.1	7.4	11.7	15.6	13.6	0.48
泉州	17.6	14.5	3.5	2.21	0.55	0.33	2.8	7.8	8.4	10.9	12	11.5	0.22
大阪市	29.1	29.2	5.2	1.3	0.71	0.63	2.9	11.1	9.3	14.5	18.7	12.3	0.48
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	9.4	8	11.8	15.5	11.4	0.37

1 大阪市二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制②

人口10万当たりの在宅医療提供施設数には、各区でばらつきがある

●在宅医療提供体制(人口10万対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所	再掲)機能強化型	在宅療養支援病院	再掲)機能強化型	在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)	訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	再掲)機能強化型
	北区	20.2	36.4	2.4	0.0	0.0	2.4	4.9	10.5	11.3	19.4	19.4	10.5
都島区	22.9	23.9	1.9	1.0	1.0	0.0	2.9	7.6	4.8	8.6	18.1	13.4	0.0
福島区	23.5	19.3	1.4	0.0	0.0	1.4	5.5	11.0	11.0	15.2	23.5	13.8	0.0
此花区	34.5	33.0	1.5	3.0	0.0	1.5	1.5	12.0	3.0	19.5	16.5	9.0	0.0
中央区	44.1	45.1	3.2	0.0	0.0	0.0	3.2	19.3	20.4	31.2	23.6	11.8	0.0
西区	10.8	14.1	2.2	1.1	0.0	3.3	4.3	11.9	9.7	16.2	16.2	11.9	1.1
港区	25.6	24.4	7.3	0.0	0.0	0.0	2.4	4.9	8.5	17.1	12.2	4.9	0.0
大正区	27.6	26.1	7.7	1.5	0.0	1.5	3.1	12.3	13.8	12.3	32.2	7.7	1.5
天王寺区	23.8	26.4	6.6	1.3	0.0	0.0	5.3	5.3	13.2	14.5	30.4	17.2	0.0
浪速区	22.9	27.2	11.5	1.4	0.0	2.9	4.3	11.5	7.2	15.8	11.5	12.9	0.0
西淀川区	24.1	27.2	5.2	1.1	1.1	2.1	4.2	9.4	4.2	8.4	22.0	12.6	2.1
淀川区	21.0	19.3	6.2	0.6	0.0	0.0	1.7	10.2	16.5	15.9	13.6	8.5	0.0
東淀川区	19.4	12.5	2.3	0.6	0.0	0.0	1.1	9.7	4.6	9.7	14.8	12.5	0.6

1 大阪市二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制②

●在宅医療提供体制(人口10万対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所		在宅療養支援病院		在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)		訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	
		再掲)機能強化型		再掲)機能強化型				再掲)機能強化型					再掲)機能強化型	
東成区	49.7	44.7	16.1	3.7	3.7	0.0	5.0	19.9	12.4	21.1	18.6	14.9	1.2	
生野区	42.3	39.2	8.5	3.1	2.3	0.8	1.5	10.0	7.7	12.3	22.3	11.5	0.8	
旭区	40.4	38.2	10.9	3.3	2.2	0.0	3.3	12.0	8.7	15.3	15.3	9.8	2.2	
城東区	31.0	35.8	7.3	1.8	1.2	0.6	3.0	7.3	7.3	10.9	17.0	10.3	0.6	
鶴見区	20.6	20.6	4.5	2.7	2.7	0.0	2.7	8.1	5.4	8.1	11.7	10.8	0.9	
阿倍野区	30.7	27.9	3.7	0.0	0.0	0.0	1.9	21.4	11.1	23.2	26.0	18.6	0.9	
住之江区	22.0	30.9	4.1	0.8	0.8	0.0	4.1	16.3	8.1	12.2	17.9	13.0	0.0	
住吉区	30.5	28.5	3.9	1.3	0.0	0.0	4.5	8.4	9.1	8.4	22.7	11.0	0.7	
東住吉区	42.8	38.8	4.0	2.4	1.6	0.0	4.0	8.7	10.3	21.4	16.6	14.3	0.0	
平野区	30.0	31.0	4.1	0.0	0.0	0.5	0.0	10.2	6.1	11.2	17.8	14.2	0.0	
西成区	45.6	36.6	4.5	2.7	0.9	0.9	1.8	16.1	12.5	13.4	20.6	18.8	0.0	
大阪市	29.1	29.2	5.2	1.3	0.7	0.6	2.9	11.1	9.3	14.5	18.7	12.3	0.5	
大阪府	22.5	21.0	3.8	1.2	0.5	0.4	2.8	9.4	8.0	11.8	15.5	11.4	0.4	

1 大阪市二次医療圏の概要 (6) 診療実態の分析の結果

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、約9%の回復期機能への転換が必要と推計できる(2017年度は約10%)

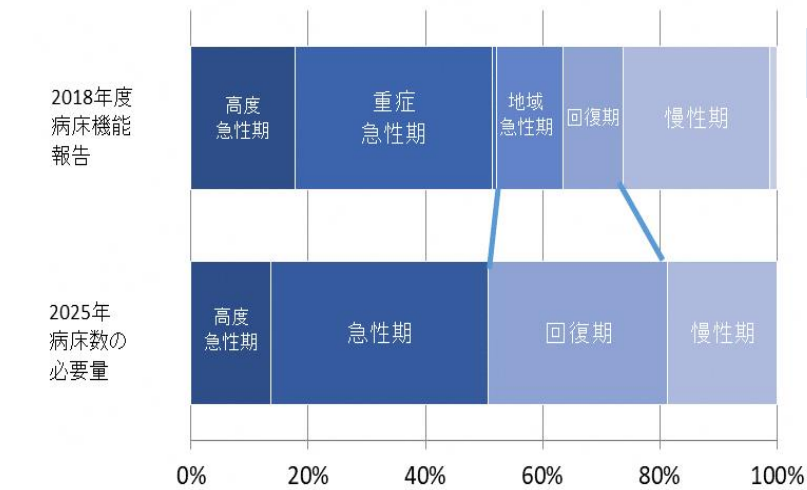
● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

(単位:床)

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計	
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床数の必要量	2013	4,335	10,624			8,525	7,003			30,487	
病床機能報告	2014	5,304	16,594			2,162	6,505	160	2,545	33,270	
病床機能報告	2015	4,561	16,101			2,446	7,276	400	2,222	33,006	
病床機能報告	2016	5,326	15,804			2,515	7,336	296	1,522	32,799	
病床機能報告	2017	5,828	15,279	10,752	781	3,746	2,809	8,013	193	76	32,198
病床機能報告(暫定)	2018	5,566	14,375	10,589	241	3,545	3,230	7,857	395	—	
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	4,413	11,939				9,916	6,006			32,274
病床数の必要量【オリジナル】	2025	4,745	12,838				10,662	6,458			34,703

● 病床機能報告(2018年度)と病床数の必要量(2025年)の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床機能報告	2017	18.1%		33.5%	2.4%	11.7%	8.7%	24.9%	0.6%	—
病床機能報告(暫定)	2018	17.7%		33.7%	0.8%	11.3%	10.3%	25.0%	1.3%	—
病床数の必要量	2025	13.7%	37.0%			30.7%	18.6%			



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告(地域急性期+回復期)

2017年度	20.4%
2018年度(暫定)	21.6%

② 病床数の必要量(回復期)

30.7%

割合の差
9.1%
(約3,000床)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

高度急性期～急性期において、「急性期一般入院料2～7(一般病棟10対1)」が1割以上減少している

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	大阪市				大阪府			
	病床数	前年との差	人口10万当たり病床数	前年との差	病床数	前年との差	人口10万当たり病床数	前年との差
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	916床	62床	34床	2床	2,155床	84床	24床	1床
小児入院医療管理料	572床	▲28床	21床	▲1床	1,827床	▲74床	21床	▲1床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	1,364床	47床	50床	2床	5,016床	71床	57床	1床
急性期一般入院料1(一般病棟7対1)	11,691床	▲52床	431床	▲2床	27,681床	▲369床	313床	▲5床
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	3,151床	▲175床	116床	▲6床	5,995床	332床	68床	4床
急性期一般入院料1【急性期での報告】	8,540床	238床	315床	9床	21,627床	▲376床	245床	▲4床
急性期一般入院料2～7(一般病棟10対1)	2,921床	▲454床	108床	▲17床	8,657床	▲6床	98床	0床

●病床の利用状況

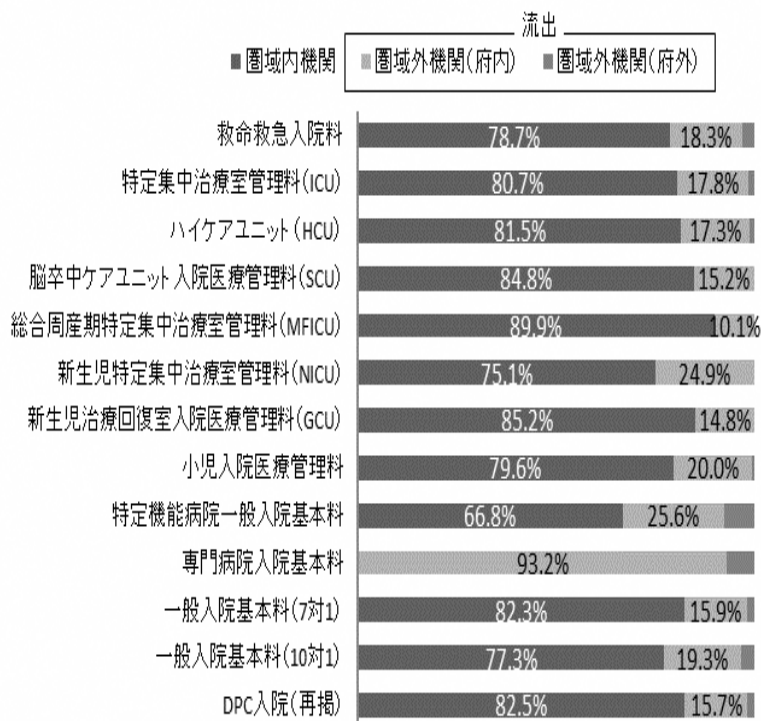
入院料区分	大阪市				大阪府			
	病床稼働率	前年との差	平均在棟日数	前年との差	病床稼働率	前年との差	平均在棟日数	前年との差
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	75.5%	6.4%	5.2	0.2	75.7%	5.2%	5.1	0.4
小児入院医療管理料	64.3%	▲7.4%	6.3	0.1	70.1%	▲4.3%	6.4	▲0.3
特定機能病院一般病棟入院基本料等	86.9%	27.8%	11.3	▲0.2	86.2%	5.5%	11.2	▲1.0
急性期一般入院料1(一般病棟7対1)	81.4%	▲0.7%	10.7	0.0	83.7%	1.8%	10.7	▲0.2
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	83.1%	0.9%	10.5	0.6	85.8%	0.6%	10.6	0.3
急性期一般入院料1【急性期での報告】	80.8%	▲1.7%	10.7	▲0.3	83.4%	1.5%	10.7	▲0.3
急性期一般入院料2～7(一般病棟10対1)	85.6%	9.1%	16.3	1.3	78.2%	2.5%	15.4	0.3

入院料ごとの自己完結率は8割程度と高くなっており、また「一般入院基本料(7対1)」で特に流入超過の傾向がみられる

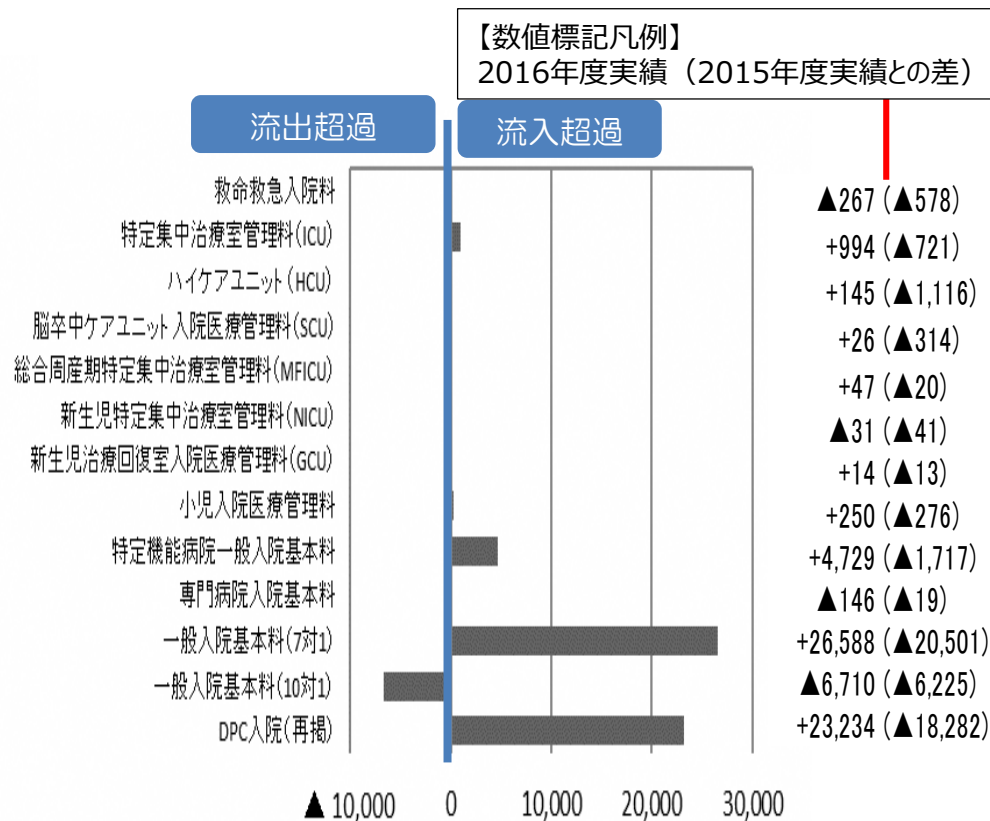
○入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合



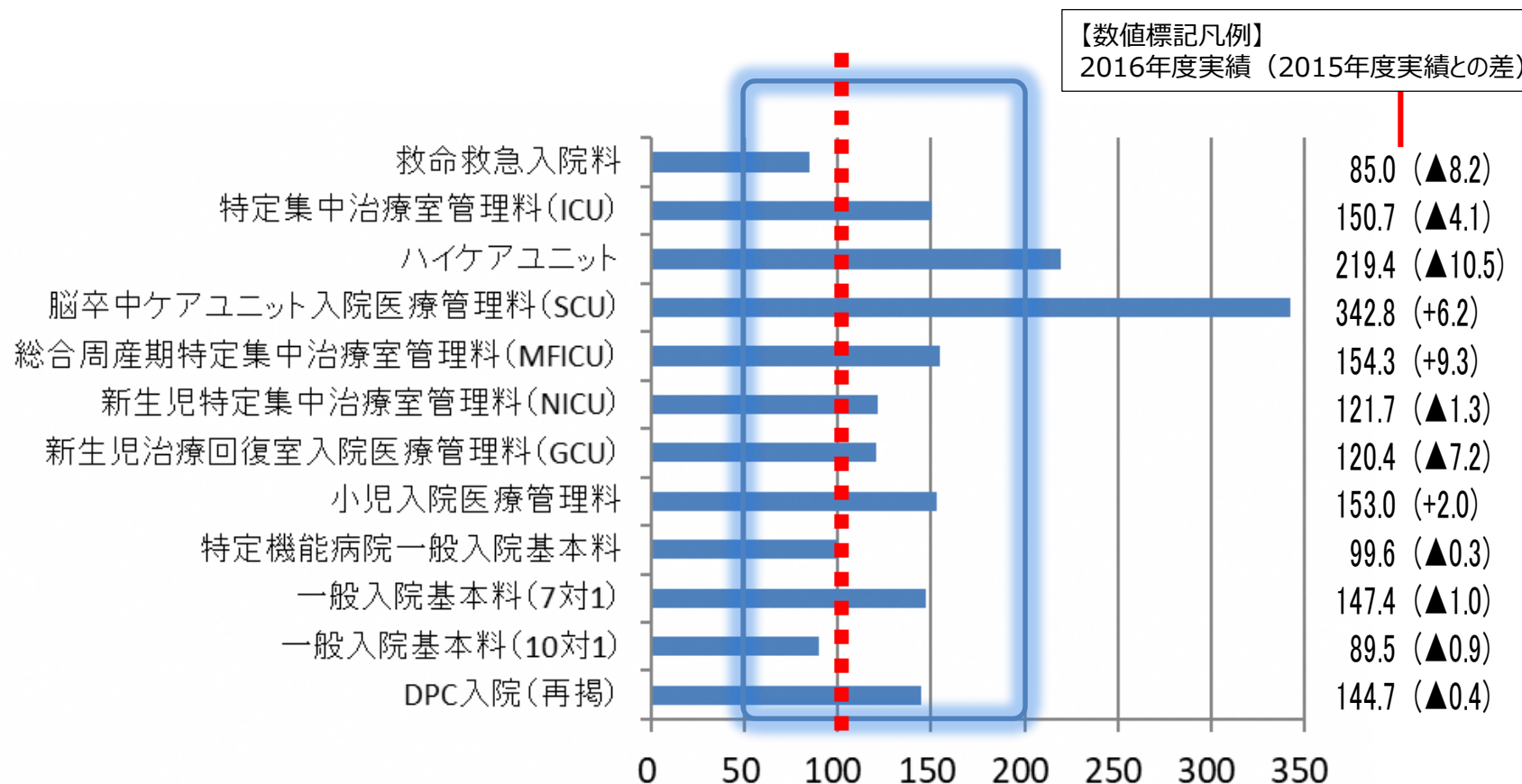
●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ②

多くの入院料のSCRは、50～200の範囲に含まれており、医療提供実績が特に低い入院料はみられない

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○人口10万当たりの病床数は、多くの入院料で府を上回っており、自己完結率は8割程度と高く、流入超過の傾向がみられる

○「急性期一般入院料2～7(一般病棟10対1)」の病床数は、1割以上減少しており、また2015年度と比べると、自己完結率と流入超過の傾向は低下している

○今後の医療需要増加に対応していくためには、引き続き他圏域との流出入の状況等に留意しながら、急性期の医療提供体制のあり方について検討していく必要がある

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

急性期～回復期において、「地域一般入院料3(一般病棟15対1)」が2割以上減少し、「地域包括ケア病棟入院料」が約1割増加している

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	大阪市				大阪府			
	病床数	前年との差	人口10万当たり病床数	前年との差	病床数	前年との差	人口10万当たり病床数	前年との差
地域一般入院料1、2(一般病棟13対1)	834床	▲9床	31床	▲0床	2,158床	▲72床	24床	▲1床
地域一般入院料3(一般病棟15対1・特別)	1,064床	▲331床	39床	▲12床	2,772床	▲566床	31床	▲7床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	1,500床	164床	55床	6床	3,785床	501床	43床	6床
回復期リハビリテーション病棟入院料	1,628床	▲80床	60床	▲3床	5,993床	141床	68床	2床
緩和ケア病棟入院料	168床	19床	6床	1床	643床	50床	7床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	大阪市				大阪府			
	病床稼働率	前年との差	平均在棟日数	前年との差	病床稼働率	前年との差	平均在棟日数	前年との差
地域一般入院料1、2(一般病棟13対1)	62.9%	▲7.2%	22.5	0.4	63.5%	▲5.6%	21.6	0.1
地域一般入院料3(一般病棟15対1・特別)	69.6%	▲0.8%	36.2	4.1	72.5%	2.0%	38.8	4.0
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	84.2%	3.5%	26.4	1.7	83.5%	5.8%	25.2	1.2
回復期リハビリテーション病棟入院料	87.5%	▲1.3%	54.0	▲6.2	87.3%	▲2.3%	59.1	▲2.3
緩和ケア病棟入院料	66.7%	4.5%	19.2	1.9	68.3%	▲2.4%	22.9	▲2.3

出典 病床機能報告(結果は暫定集計)

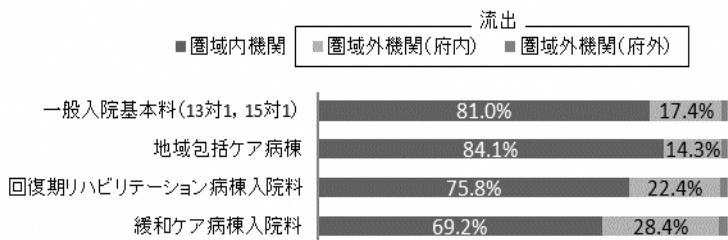
3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

入院料ごとの自己完結率はほぼ7割を超えており、2015年度の流入超過から流出超過となり、また、SCRは100程度となっている

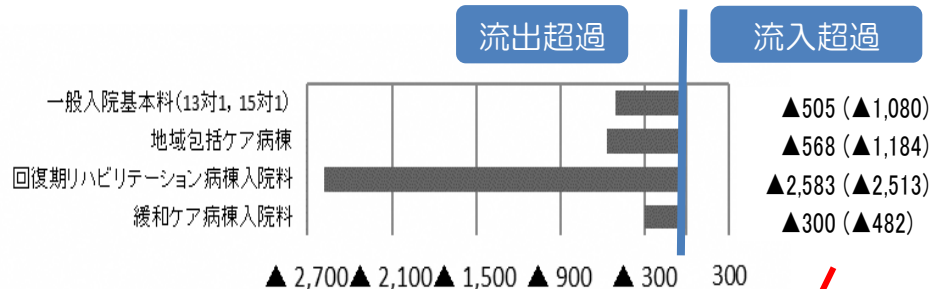
○入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

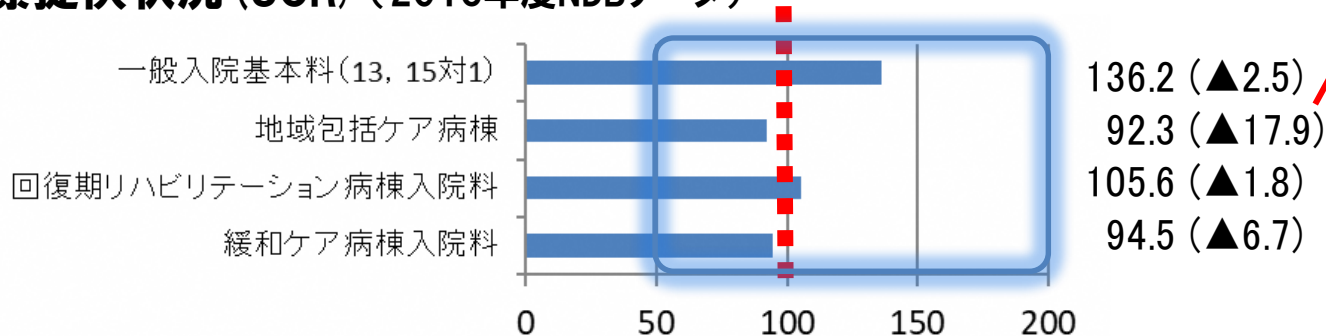
●住民の入院先医療機関の所在地別割合



●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



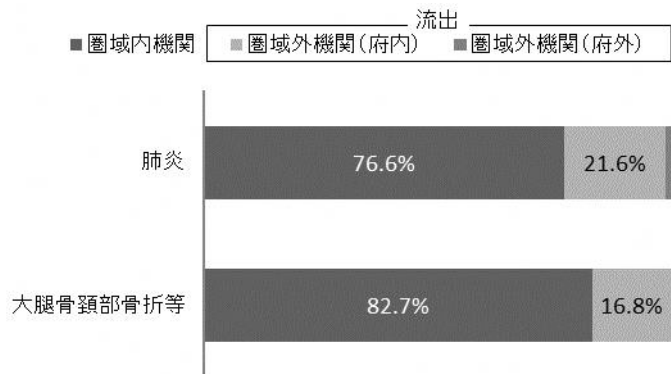
3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)②

肺炎・大腿骨頸部骨折の自己完結率は約8割であり、2015年度の流入超過から流出超過の傾向となり、また、SCRは100程度となっている

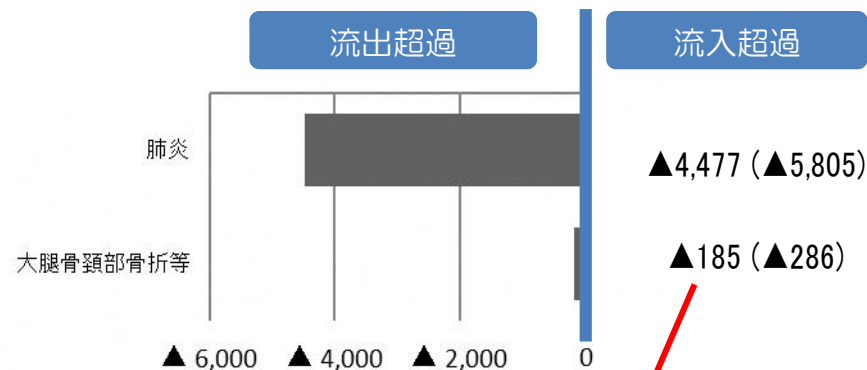
○肺炎・大腿骨頸部骨折

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合

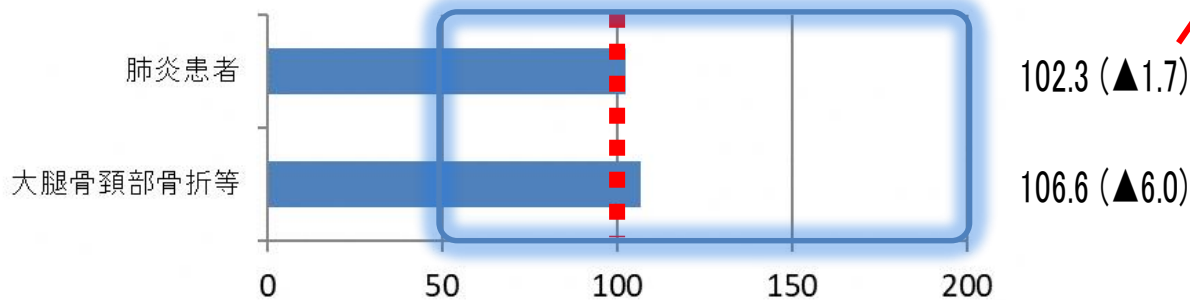


●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

- 人口10万当たりの病床数は、多くの入院料で府を上回る、もしくはほぼ同程度となっており、「地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料」の病床数は、2015年度に比べ、約1割増加している
- 各入院料や肺炎・大腿骨頸部骨折の自己完結率は7～8割程度で、2015年度の流入超過から流出超過の傾向がみられる
- 今後の医療に対応した病床機能分化を図っていくためには、引き続き急性期病棟における「地域急性期」機能の状況や、回復期機能への転換にも留意しながら、検討していく必要がある

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

慢性期において、「介護療養病床」が2割以上減少している

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	大阪市				大阪府			
	病床数	前年との差	人口10万当たり病床数	前年との差	病床数	前年との差	人口10万当たり病床数	前年との差
療養病棟入院基本料	5,316床	115床	196床	4床	17,007床	210床	193床	3床
介護療養病床	383床	▲114床	14床	▲4床	1,483床	▲305床	17床	▲3床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	2,170床	269床	80床	10床	6,295床	406床	71床	4床

●病床の利用状況

入院料区分	大阪市				大阪府			
	病床稼働率	前年との差	平均在棟日数	前年との差	病床稼働率	前年との差	平均在棟日数	前年との差
療養病棟入院基本料	87.2%	1.3%	208.4	14.1	88.6%	0.2%	209.9	▲7.2
介護療養病床	85.5%	▲1.6%	428.1	10.2	83.0%	▲10.0%	322.6	▲16.4
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	88.1%	2.3%	63.5	▲24.9	89.2%	2.5%	85.0	▲10.4

出典 病床機能報告（結果は暫定集計）

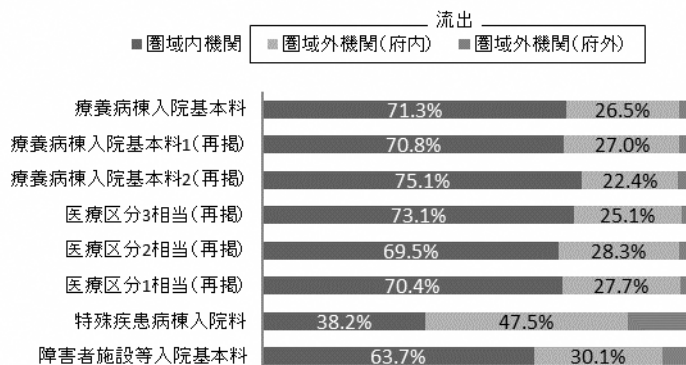
4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

多くの入院料の自己完結率は6~7割程度、また流出超過の傾向がみられ、SCRは50~200の範囲に含まれている

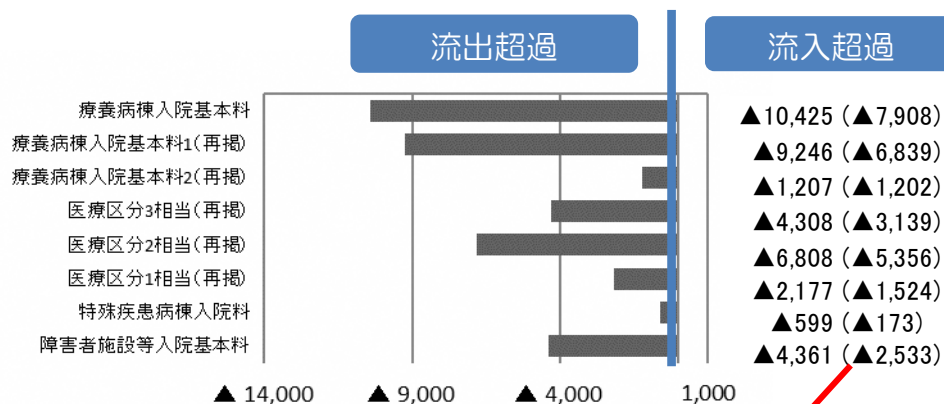
○入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

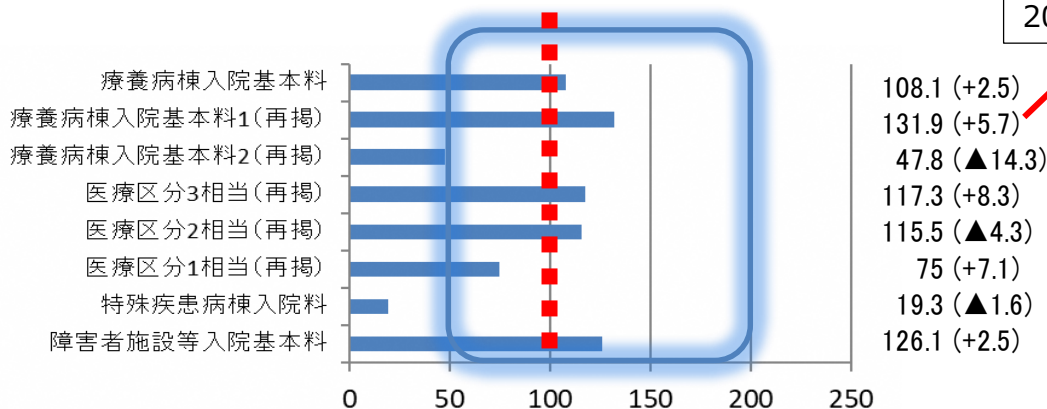
●住民の入院先医療機関の所在地別割合



●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



(2) 医療提供状況(SCR)(2016年度NDBデータ)



【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)

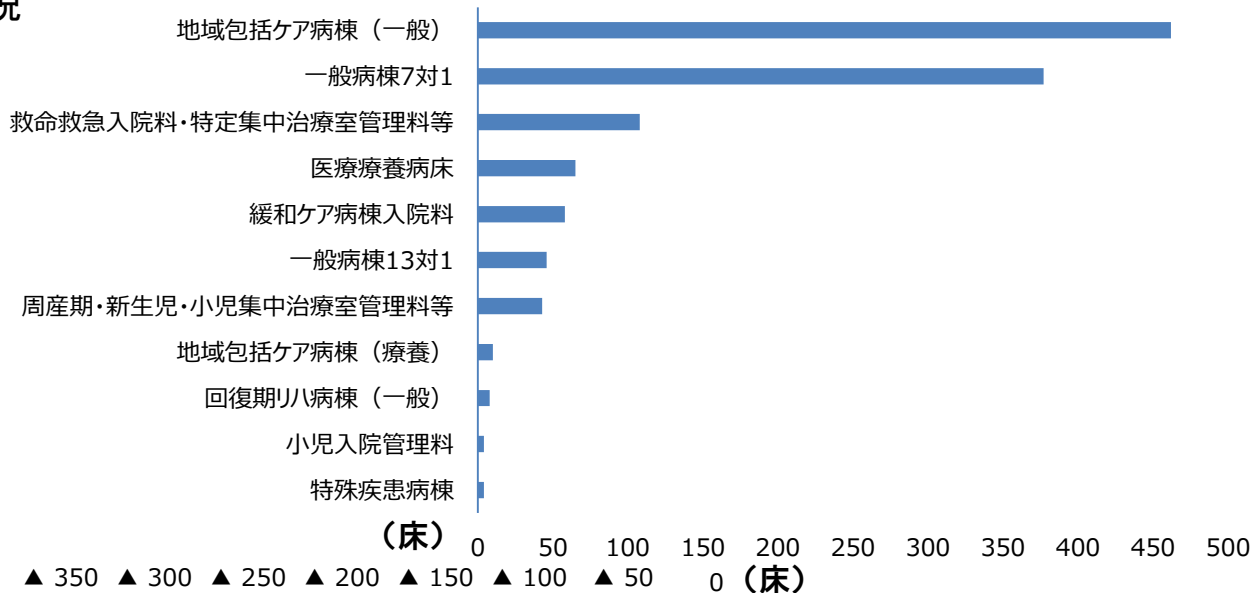
4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

- 人口10万当たりの病床数及び病床稼働率は、概ね府と同程度であるが、「介護療養病床」が2割以上減少している
- 多くの入院料の自己完結率は6～7割であり、また流出超過の傾向がみられ、2015年度に比べると、自己完結率は低下し、流出超過が進んでいる
- 今後の需要に対応した病床機能分化を図っていくためには、引き続き療養病床の介護施設への転換の状況にも留意しながら、検討していく必要がある

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能①

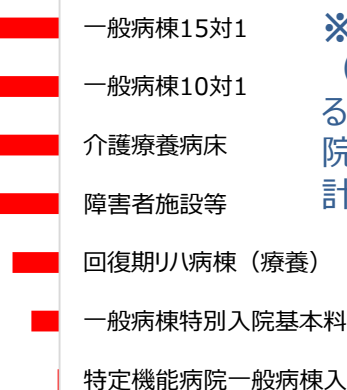
2025年に向け病院が検討している病床機能等の変更は、地域医療構想が目指す病床機能分化の方向性と概ね一致している

●入院料別の検討状況



●公立・公的・民間別の検討状況

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	全体
公立	102	▲ 5	0	0	97
公的	▲ 303	279	13	0	▲ 11
民間等	509	▲ 568	325	▲ 174	92
合計	308	▲ 294	338	▲ 174	178



※2025年に向けた検討状況
(各病院の2025年に検討している入院料別病床数総計から各病院の現在の入院料別病床数の総計を差し引いて算出)

5 将来のあるべき医療体制に向けて(1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能②

済生会中津病院、医誠会2病院、大阪警察病院、錦秀会4病院が2025年に向け病院の再編を検討している

●大阪市北部

	公立・公的・民間	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
北区	公的	済生会中津病院	136	543	33	0	0	712

再編後

再編予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2024年秋	済生会中津病院	106	444	0	0	550
	済生会(回復期病院)	0	0	96	0	96
計		106	444	96	0	646
増減		▲ 30	▲ 99	+63	0	▲ 66

●大阪市北部・東部

	公立・公的・民間	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
東淀川区	民間等 (医誠会)	医誠会病院	30	297	0	0	0	327
城東区		城東中央病院	0	115	27	91	0	233
計			30	412	27	91		560

再編後

再編予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2022年度	【仮称】大阪医誠会国際総合病院	560	0	0	0	560
増減		+530	▲ 412	▲ 27	▲ 91	0

※当プラン案については、市保健医療連絡協議会にて、継続審議

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能②

●大阪市東部

	公立・公的・民間	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
天王寺区	公的	大阪警察病院	272	255	0	0	53	580
天王寺区	民間等	NTT西日本大阪病院	4	282	0	0	55	341
計			276	537	0	0	108	921

再編後

再編予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2021年	大阪警察病院	295	559	0	0	854
増減		+19	+22	0	0	▲67

●大阪市南部

	公立・公的・民間	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
住吉区	民間等 (錦秀会)	阪和病院	0	0	0	549	0	549
		阪和第二病院	0	0	0	114	0	114
		阪和記念病院	18	117	0	0	0	135
		阪和住吉総合病院	0	115	0	0	0	115
計			18	232	0	663	0	913

再編後

再編予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2022年	4病院を2病院に統合	18	160	305	430	913
増減		0	▲72	+305	▲233	0

※急性期、回復期、慢性期の病床数について、数床程度修正の可能性あり

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 2025年に向け各病院が検討している病床機能のまとめ

○2025年に向け病院が検討している病床機能等の変更は、地域医療構想が目指す病床機能分化の方向性と概ね一致している